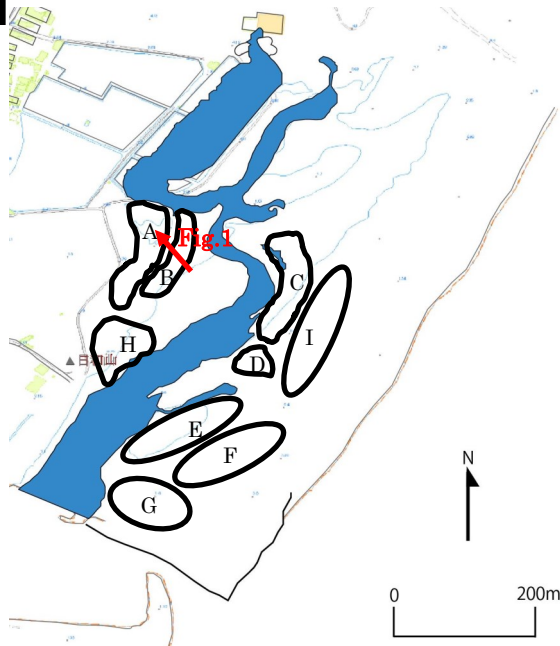


## 蒲生干潟の植物⑤



2020/08/20 調査エリア 2020年8月調査



Fig.1 エリアAを南東側から撮影



Fig.2 エリアAで撮影



Fig.3 エリアIで撮影

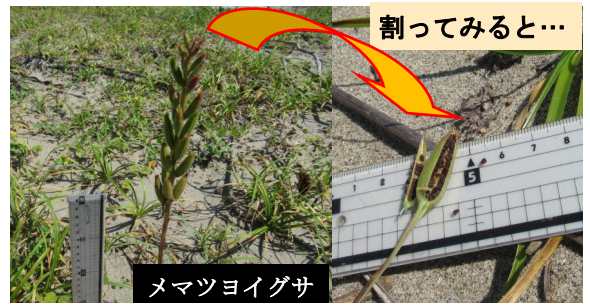


Fig.4 エリアIで撮影

調査日時：2020年8月20日（木）9:30～11:00，天気：晴れ

8月上旬に梅雨が明けてからは、30℃を超える日が続いていた。今回の調査日は晴天に恵まれたこともあり、30℃を超える気温の中、先月に続き植生調査を実施した。

エリアAを南東方面から見ると、先月と比べ更にヨシの丈が伸び、2mをはるかに超えるものもあった(Fig.1)。ヨシの先を見てみると、花がまっすぐ上を向いて咲いていた(Fig.2)。エリアIやFでは、メマツヨイグサが点在していた。メマツヨイグサは1m程の高さまで成長し、先端に黄色い花を咲かせていた。中には花を終え、実をつけているものもあった(Fig.4)。



Fig.5 エリアIで7.17撮影



Fig.6 エリアIで撮影



Fig.7 エリアFで撮影

7月の調査で紫色の小さな花を咲かせていたオニハマダイコン(Fig.5)は、実をつけていた(Fig.6)。その実はまだ未熟で緑色をしていた。4月～6月頃にかけて花を咲かせていたコウボウムギは、先月頃から穂の部分の緑色に茶色が目立つようになってきていた。今回は、ほとんどのコウボウムギの穂が茶色く熟しており、手で触ると穂がとげのように固くなっていた。その穂のすき間からは種子がこぼれ落ちた(Fig.7)。今回の調査では、ヨシやメマツヨイグサの花を見ることができたが、全体としては花よりも未熟な実や種子を見ることが多かった。

(丹野美紀)